

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 8 日現在

機関番号：17301

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2014～2015

課題番号：26884033

研究課題名(和文) 奴隷制廃止の世界史的研究 ペルシア湾側アラビア半島を事例にして

研究課題名(英文) Abolition of Slavery in the Context of World History: A Case Study on Persian Gulf Coast of Arabian Peninsula

研究代表者

鈴木 英明 (SUZUKI, Hideaki)

長崎大学・多文化社会学部・准教授

研究者番号：80626317

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、従来、それそのものを十分に扱った研究が存在しないペルシア湾側アラビア半島の奴隷制廃止について、そのプロセスと世界史的な位置づけを明らかにする作業を行った。英国図書館をはじめとする複数の文書館での調査を基礎にして、以下の点を解明した。当該地域の奴隷制廃止に関するクロノロジー、当該地域に大きな影響を及ぼしたイギリスをはじめとする国際関係の文脈。その成果は、アジア世界史学会(AAWH)など複数の国際学会での報告、及び、現在、刊行準備の進んでいる論文集への寄稿で社会的還元を行った。

研究成果の概要(英文)： This project focuses on abolition of slavery along the Persian Gulf coast of Arabian peninsula and clarifies its significance in the context of world history. Following archival research at several archives including British Library etc., the following points are clarified. a. chronology of abolition in the focused area, b. its context of international relation including that with Britain who was the most influential to the region. These results are published at several international conferences including Asian Association of World Historians (AAWH) and also chapter contribution to the publication which is now in print.

研究分野：歴史学

キーワード：世界史 ペルシア湾 奴隷 国際関係

1. 研究開始当初の背景

奴隷にかかわる問題群(奴隷交易・奴隷制〔並びにそれに類似した制度、以下同じ〕・その廃止など)は、現在、世界的な拡がりのなかで研究が進展している。そうした中で、一国史や地域史といった従来の限定された空間を超越しようとする試みがなされるようになってきた。こうした試みの多くは「比較」をその手法とする(cf. G. Campbell (ed.) *Abolition and its Aftermath in Indian Ocean Africa and Asia*, New York, 2005; T. Walz and K.M. Cuno (eds.) *Race and Slavery in the Middle East*, Cairo & NY, 2010)。しかし「世界史」という枠組みを念頭に置けば、これらの試みは必ずしも手放しで評価できない。

すなわち、グローバル化の進展する現状において、歴史学に求められる役割のひとつに、世界を一体のものとして提示する歴史像の構築がある(例:秋田茂「グローバルヒストリーの挑戦と西洋史研究」『パブリック・ヒストリー』5(2008);水島司〔編〕『グローバル・ヒストリーの挑戦』山川出版社、2008年)。これらにおいては、従来の一国史的な歴史研究の枠組みの相対化、あるいは、国民国家・国民経済に代わるような広域の地(海)域や世界システム・国際秩序を提示するなどし、国境を容易にまたぐグローバル化と総じていわれる諸現象を歴史的に捉え直すことによって、現代社会への歴史学研究的発信力を再構築しようとする狙いを持つ(秋田、前掲論文)。また、それに加えて、たとえば、羽田正は次のように主張する。歴史の果たすひとつの大きな役割が自己のアイデンティティ形成にあるとすれば、国民国家史や民族史、地域史などの枠組みに包摂されてきた従来の歴史学研究的の多くは、国民国家や民族、地域など自他を峻別するようなアイデンティティ形成に貢献してきたといえる。しかし、

環境問題や自然災害、世界的経済危機など、こんにち、世界規模で進展する問題については、自他の峻別は、ときに問題解決の障害となりうる。そのように考えると、自他を峻別する方向性とは別の、自他の境界を融解させるような歴史像の構築の必要性が存在する(例:羽田正『新しい世界史へ 地球市民のための構想』岩波書店、2011年)。羽田のこの言及を受け止めると、「比較」は次のような問題を帯びる。すなわち、秋田・桃木が指摘しているように、比較研究では常に比較の対象をどのように設定するかが問題となるが(秋田茂・桃木至朗「グローバルヒストリーと帝国」秋田・桃木(編)『グローバルヒストリーと帝国』、2013、大阪大学出版会)、究極的には、比較研究においては、その研究全体がいかに世界全体を覆おうとも、全体を細分化し、比較の対象を取り出す必要があり、それゆえに、地球全体を一体化したものとして提示することは難しい。

グローバルヒストリー/世界史では、「比較」と並んで「連関」もまた有効な手法とされ(P. O'Brien, "Historiographical traditions and modern imperatives for the restoration of global history," *Journal of Global History* 1 (2006);秋田・桃木前掲論文)、応募者はこれに注目する。その理由の一つに、自他の峻別を超越できる可能性があり、もうひとつに、特に奴隷制廃止の問題においては、この「連関」の視点が全く欠如してきたからである。奴隷制廃止の問題は、これまで主に国民国家史の枠組みで理解されてきた。たとえば、日本の芸娼妓廃止例やタイ・チャクリー朝のタート廃止、オスマン朝の奴隷解放は、それぞれ、明治維新、チャクリー改革、タンジマート改革といったそれぞれの国民国家史において重要とされる所謂「近代化改革」の一環として位置づけられてきた(cf.横山百合子「明治維新と近身分制の解体」山川出版社、2005年; David

Feeny, “The Demise of Corvee and Slavery in Thailand, 1782-1913”, in Martin A. Klein (ed.), *Breaking the Chains: Slavery, Bondage, and Emancipation in Modern Africa and Asia*, Madison, 1993; Y. Hakan Erdem, *Slavery in the Ottoman Empire and Its Demise, 1800-1909*, New York, 1996)。近代歴史学の持つ問題の一つに国民国家体制との癒着が挙げられるが、奴隷制廃止の問題は、まさに国民国家史や地域史に回収される形で解釈されてきた。奴隷制廃止が各国民（地域）アイデンティティに果たした役割を否定できない一方で、世界の各廃止をまとめた年表（eg. P. Lovejoy, *Transformations in Slavery*, Cambridge, 2000, 290-294）を見ればわかるように、世界史的に見れば、奴隷制廃止が18世紀最末期から20世紀前半に世界各地で生じた同時代的共通体験であったといえる。この観点が従来の研究には著しく欠け落ちていた。国民国家や地域アイデンティティに深く根差したこのような問題を世界史レベルで展開させることは、現状において、世界（グローバル）史研究者が取り組むべき大きな課題であるはずであり、この文脈において、このテーマはきわめて高い意義を有している。応募者は、研究略歴に示した一連の研究プロジェクトに参加する中で、世界史ないしはグローバルヒストリーと呼ばれる分野に触れ、国民国家や地域といった既存の枠組みの相対化の必要性を意識してきた。特に、「ユーラシア近代と新しい世界史叙述」においては、このような問題意識に基づき、奴隷制廃止についての研究会を主宰する機会に恵まれた。こうした経験が本研究を発想する礎となっている。

2. 研究の目的

従来、奴隷制廃止はそれぞれの国民国家史や地域史の枠組みにおいて検討されてきた。これに対して、本研究は、奴隷制廃止を世界の全域を覆った同時代的な共通体験として

捉え、そのうえで、ペルシア湾側アラビア半島（現在のUAE以北）における奴隷制廃止を世界史の文脈において位置づけることを目的とする。世界各地の奴隷制廃止が19世紀から20世紀前半に集中していることは、年表などを見れば明らかであるが、こうした同時代的共通体験がどのように生じたのかについては、現状では明確な答えが出ていない。本研究は、ペルシア湾側アラビア半島における奴隷制廃止を事例にして、それが他の廃止とどのようにして結ばれていたのかを実証的に明らかにすることによって、従来、国民国家など一定の領域を持つ枠組みの内側で理解されてきた奴隷制廃止という現象を世界史レベルの問題に定置しようとするものである。

3. 研究の方法

本研究では、具体的な考察地域をアラビア半島側ペルシア湾（現在のUAE以北）とする。その理由の一つは、この地域の奴隷制廃止については、資料自体が散逸しており、信頼できる研究も乏しいからである。したがって、研究計画で述べるように、廃止のプロセスの全体像をつかむことから始める必要がある。そのうえで、この地域の奴隷制廃止がいかにして他の地域と関連していたのかを4つの層 a ペルシア湾・オマーン湾、b インド洋西海域、c イギリス帝国、d 世界全体（特に国際連合など）から検討する。

4. 研究成果

本研究では、英国図書館をはじめとする複数の文書館での調査を基礎にして、以下の点を解明した。当該地域の奴隷制廃止に関するクロノロジー、当該地域に大きな影響を及ぼしたイギリスをはじめとする国際関係の文脈。その成果は、アジア世界史学会(AAWH)などの国際学会での報告（Hideaki Suzuki, “Suppression of Slave Trade and Establishing the Informal Empire in the Persian Gulf, 1820-1950,” Asian Association of World Historians, Nanyang University (Singapore), 30 May 2015; Hideaki Suzuki, “Logics of Bonding and Protection in the Early Twentieth Century Persian Gulf,” *Free/Unfree Labor: Local Constraints and Global Dynamics*, Africa, Europe, Asia, 16th Century to Present Days, EHESS (Paris, France), 9 June 2015）及び、書籍など（既刊として Hideaki Suzuki, *Abolitions as a Global Experience*, NUS

Press : Singapore, 2016) で社会的還元を行った。

長崎大学・多文化社会学部・准教授
研究者番号：80626317

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 3 件)

・ Hideaki Suzuki, "Suppression of Slave Trade and Establishing the Informal Empire in the Persian Gulf, 1820-1950," Asian Association of World Historians, Nanyang University (Singapore), 30 May 2015

・ Hideaki Suzuki, "Logics of Bonding and Protection in the Early Twentieth Century Persian Gulf," Free/Unfree Labor: Local Constraints and Global Dynamics, Africa, Europe, Asia, 16th Century to Present Days, EHESS (Paris, France), 9 June 2015

・ Hideaki Suzuki, "'African' in the early twentieth century Persian Gulf," Africa and Asia Entanglements in Past and Present: Bridging between History and Development Studies, Kansai University (Osaka, Japan), 31 July 2015

〔図書〕(計 1 件)

・ Hideaki Suzuki, *Abolitions as a Global Experience*, NUS Press : Singapore, 2016, 303.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 英明 (SUZUKI, Hideaki)